

教育・誘引防止・飲酒運転等ワーキンググループ 整理票

項目	施策・取組(●:施策、○:取組)	現状	課題・問題点	求められる施策等
教育・誘引防止・飲酒運転等WG				
3 アルコール健康障害に関連して飲酒運転等をした者に対する指導等				
(1) 飲酒運転をした者に対する指導等				
飲酒運転	<ul style="list-style-type: none"> ● 刑務所における交通安全指導におけるアルコール依存回復プログラム ● 飲酒運転違反者に対する停止処分者講習(飲酒学級)、飲酒取消処分者講習 ● 事業用自動車における飲酒運転に対する行政処分の厳格化 ○ 複数回飲酒運転違反者に対する依存症受診指導等(福岡県) ○ 受刑者教育プログラムへの参画(断酒会・AA) ○ 保護観察対象者への教育・相談支援(断酒会・AA) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 飲酒運転の再犯者の多くにはアルコール依存症の疑いのある者や、多量飲酒者が多くいる。 ◆ 依存症者の場合はなかなか啓発が効果を持たない。 ◆ 問題飲酒のスクリーニングテストの点数が悪い人の方が、飲酒運転の経験率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 飲酒運転からの依存症等への介入は大事である。 ◆ 多職種・多機関の人たちが連携するような、戦略的な考え方で対策が必要。 ◆ 飲酒運転等をした者等が、治療や相談を受けにいっきかけとする方策が必要 ◆ 飲酒運転等の受刑者等の教育に当たっては、刑期終了後や保護観察期間中に、自助団体へつなぐことを考えるべき。 	
(2) 暴力・虐待・自殺未遂等をした者に対する指導等				
① 暴力・虐待	<ul style="list-style-type: none"> ● 刑務所における一般改善指導におけるアルコール依存回復プログラム ● 執行猶予者に対するアルコール依存介入プログラム(p) ○ 保健所をハブとした地域ネットワークの構築(愛知県衣浦東部保健所) ○ 受刑者教育プログラムへの参画(断酒会・AA) ○ 保護観察対象者への教育・相談支援(断酒会・AA) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 酩酊時はもちろん離脱時にも家族への暴力・暴言が家族へのトラウマにつながる。 ◆ 飲酒によって衝動性が高まるので、自殺だけでなく、他の犯罪や暴力行為にも関係する。 ◆ 保健所でのアルコール相談の半数は、「暴言・暴力・暴れる」という内容であった。 ◆ 鉄道の方でもお客さんが酔って暴れる等の状態で困っているのではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 飲酒運転等をした者等が、治療や相談を受けにいっきかけとする方策が必要 ◆ 飲酒運転等の受刑者等の教育に当たっては、刑期終了後や保護観察期間中に、自助団体へつなぐことを考えるべき。 	
② 酩酊による事故等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健所をハブとした地域ネットワークの構築(愛知県衣浦東部保健所) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 鉄道の方でもお客さんが酔って暴れる等の状態で困っているのではない。 		
③ 自殺未遂	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保健所をハブとした地域ネットワークの構築(愛知県衣浦東部保健所) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ アルコールとうつが繋がって、自殺に結びつく経路が作られている。 ◆ 酔っていないとリミットがかかるのが、酒を飲むことでリミットが外れる、ということが多かったと思う。 ◆ 自殺対策のハイリスク要因の一つとして、アルコールや依存症の問題を盛り込んでいる自治体は出てきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 中高年の自殺の急増期について、アルコールの問題に対する関心を高めなくてはいけない。 ◆ 自殺対策とアルコール対策が連携していくことが期待されている。 ◆ 自殺に向かう原因は様々な問題と複数の要因が関係している。 	